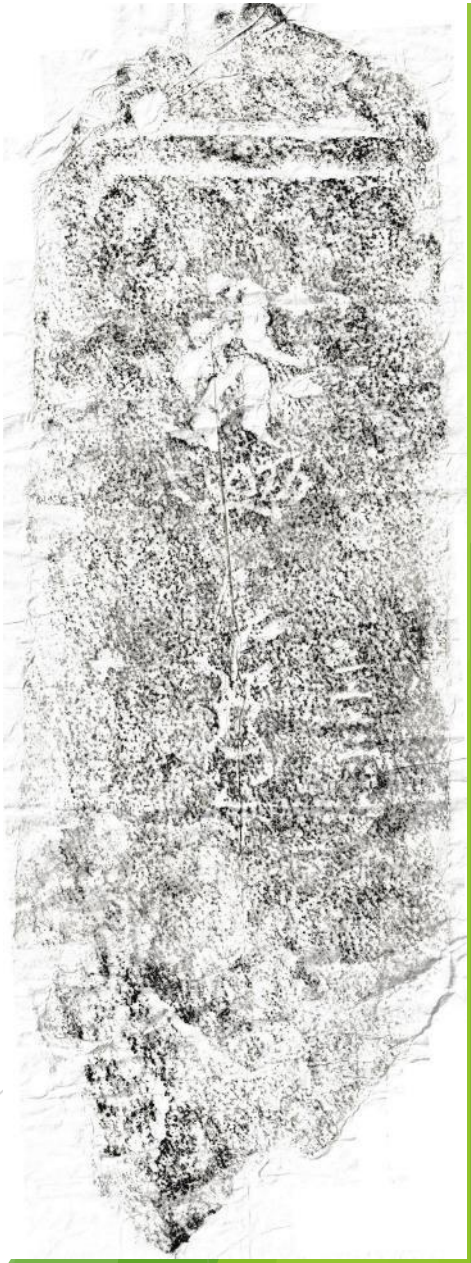
2121年11月20日「ふるさとの歴史展」ミニ講演

中世の神野を語る八千代市最多の板碑群！

神野の板碑

2020.6.27 神野の土井昭雄家で新発見の板碑121点を調査中、右は故村田顧問

延文三年銘板碑拓影



蕨 由美

板碑とは？

これまで神野では、八千代市の中でも米本に次いで多い27点の武蔵型板碑と、市の文化財に指定されている下総型板碑1点がありましたが、2020年夏の調査で新たに**武蔵型板碑121点が発見**されました。

「**板碑**」とは、板状の石材に仏像を表す種子（しゅじ）や被供養者名や年月日を刻んだ石塔で、**鎌倉時代から室町時代の仏教の供養塔**です。

関東の板碑の多くは、秩父産の緑泥片岩を使用し、頭部が三角で二条線を刻み、薄く長細い形をした「**武蔵型板碑**」と呼ばれる板碑です。

千葉県北部では、筑波石（黒雲母片岩）製で厚く大きめの「**下総型板碑**」と呼ばれる板碑が香取市や成田市、印西市などに多く分布しています。

八千代市内の下総型板碑は3点、そのうち一番大きな下総型板碑が神野の玉蔵院にあります。

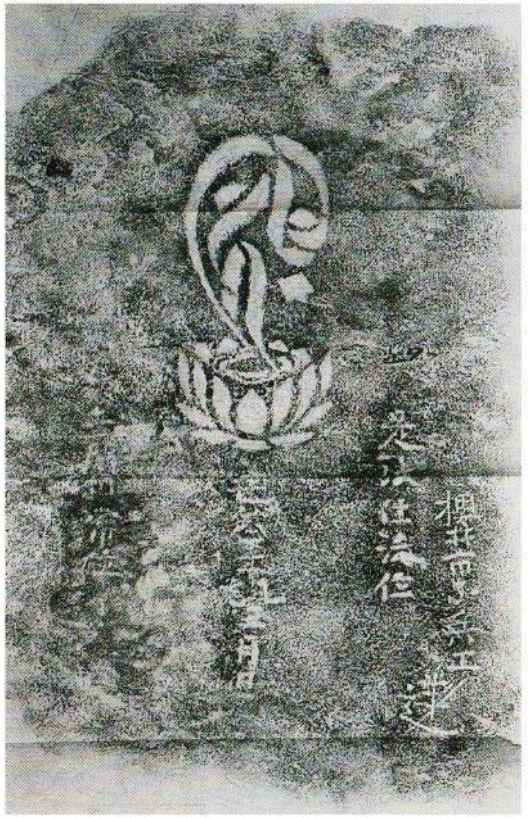
下高野の板碑

板碑とは？　「下総型板碑」

武蔵型板碑＝関東一円に広く多量に分布。上が三角で長い板状
下総型板碑＝北総の利根川中下流域に分布。分厚く大型で重厚

神野の玉蔵院の下総型板碑
種字「アーンク」
（胎蔵界大日如来）

市内最大の下総型板碑
市指定文化財　雲母片岩製
百名以上の戒名　南北朝期

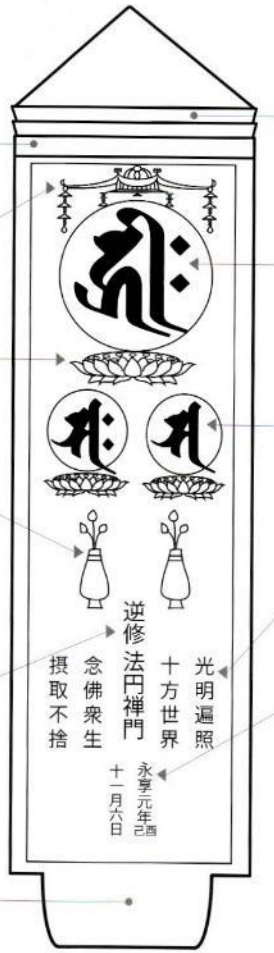


逆水の桜井家墓地の下総型板碑拓影
種字「キリーク」（荘厳体）
建武2年（1335）銘

板碑とは？　「武蔵型板碑」

板碑の各名称

「江戸川区の板碑」展図録より



額部 がくぶ

天蓋 てんがい
仏像などの頭上にかざす笠状の装飾

蓮華座 れんげざ
蓮華の形に作った仏・菩薩の乗る台座

花瓶 けびょう
仏前に具える供養具の一つで、花を供えるのに用いる瓶

造立趣旨 ぞうりゅうしゅし
供養者名、また造立意図などが記されるが、ないものもある

基部 きぶ

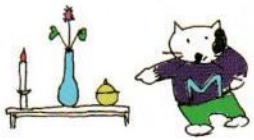
二条線 にじょうせん

主尊 しゅそん
信仰する本尊で、梵字によって仏や菩薩をあらわす種子や名号、題目、図像

脇侍 きょうじ
主尊の衆生教化を助ける菩薩をあらわす

偈 げ
仏・菩薩の徳を讃える詩や経典の一節

紀年銘 きねんめい
板碑がいつ造立されたのかを記す



武蔵型板碑の特徴

- 緑色片岩（りょくしょくへんがん）を石材として利用
- 板状に成形され、上部が三角に尖り二条線を持つ
- 13世紀前半から17世紀初頭にかけての中世に関東近郊で製作された石造物

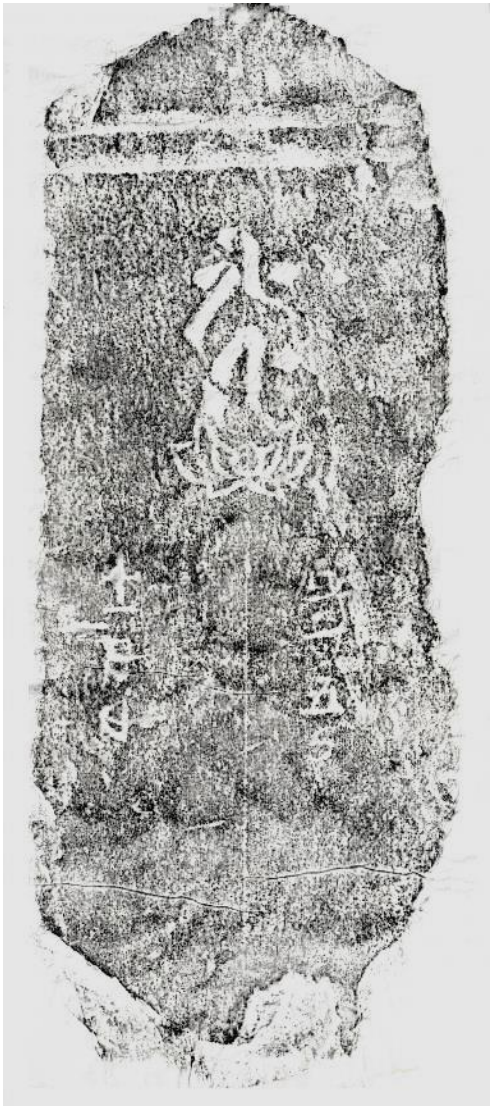
千葉市文化財　真蔵院の武蔵型板碑
永仁2年（1294）銘。武石胤盛が母の供養に建立。

八千代市文化財
米本長福寺の武蔵型板碑
文正2年(1467)他

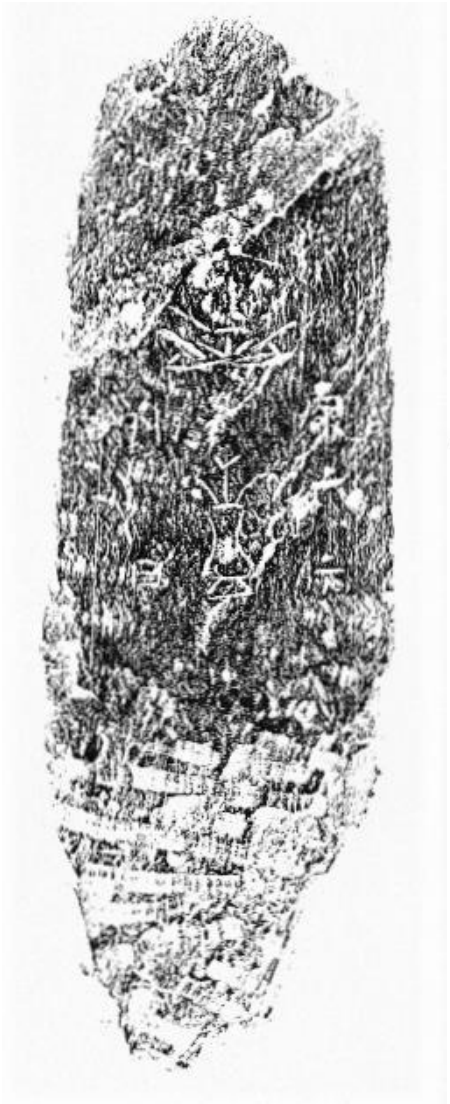
板碑とは？　「武蔵型板碑」－２　種字板碑と題目板碑

種字板碑＝仏像を表す種字（梵字）をきざまれている
題目板碑＝日蓮宗系では「南無妙法蓮華経」の題目を刻む

上高野金乗院の阿弥陀三尊種字板碑
文明11年（1479）銘　天蓋付



神野の土井昭雄家のキリーク一尊
種字板碑　延文5年（1360）銘



正覚院のキリーク一尊種字板碑
康永2年（1390）銘　蝶型蓮座

島田台 間見穴遺跡の板碑
「南無妙法蓮華経」銘

板碑とは？　文字や図像のない板碑

種字と蓮座のみで、銘文のない板碑や、図像も全くない無刻の板碑も数多く見つかっています。

これらは、①未製品説(二次加工がされなかった）、②後世の加工説（後から表面を削った）、③粗雑な製品説など、その理由は諸説あります。

神野の土井昭雄家の
No.10　有刻完形板碑（拓本）
キリークと蓮座のみで銘文なし

神野の土井昭雄家の
No.12有刻完形板碑
（表面摩滅？）

神野の土井昭雄家の
無刻の完形板碑
このような粗雑な板碑群は、
印西などでも多く見られる。

八千代市内での板碑の分布と数

『八千代市の歴史　通史編』2008年の数に新発見分を上乗せ

地区・所在地別板碑数			内訳		
			題目板碑	無刻板碑	下総型
神野	既報告	28			1
	新発見	121		90	
	計	149			
米本逆水		36		10	2
米本長福寺		24		5	
小池		23	12	11	
村上正覚院		19			
島田・島田台		10	6	2	
下高野		7			
佐山		4	3		
平戸台・平戸		4	2		
吉橋高本		4			
真木野		3			
萱田		2			
神久保		1			
桑納		1	1		
保品		1			
米本城址		1			
村上中郷		1			
村上辺田前		1			
上高野		1			

これまで神野では、八千代市の中でも米本に次いで多い27点の武蔵型板碑と、市の文化財に指定されている下総型板碑1点がありましたが、2020年夏の調査で新たに武蔵型板碑121点が発見されました。

これまで報告されていた神野の武蔵型板碑

八千代市内の板碑171基のうち、３基が下総型、他168基は全て武蔵型板碑です。

そのうち**神野では**、小名木淳家の康永三年銘など14基、土井與助家墓地の延文銘など11基、福田広家の２基の、**計27基の武蔵型板碑が報告**されていました。

27基中、紀年銘のある板碑（9基）
康永3年（1345）・貞和3年（1347）2基
貞和4年（1348）・文和5年（1356）・延文年間（1356～61）
応永2年（1395）・応永3年（1396）・寛正6年（1465）

新発見の神野の武蔵型板碑

土井昭雄家の板碑総数は121点、うち無刻で上下不明の断片35点を除くと、**基数は86基以内と推定**されます。

このうち紀年銘のある板碑(9基)
延文2年（1357）・延文3年（1358）・延文5年（1360）・長禄5年（1461）
寛正6年（1465）・文正2年（1467）2基・文明9年（1477）・文明10年（1478）

神野の小名木淳家の武蔵型板碑

すでに報告されている神野の小名木淳家の板碑14基のうち、3基を今回展示しました。

無銘の板碑
(略された種字蓮座のみ)

康永3年（1345）銘→

←貞和3年（1347）銘

小名木淳家の板碑を祀る祠

新発見の土井昭雄家の板碑の調査の様子

板碑発見と調査のきっかけ

2020年2月22日の神野地区のフィールドワークで土井昭雄家に立ち寄り、同家敷地内保管の多量の中世板碑群を見せていただきました。

これらは、未報告の板碑群であったことから、当会での調査となった次第です。

2020年6月27日　板碑調査の様子と作業の流れ

　当会の村田一男顧問の呼びかけで、10時に8名に会員が集まり、土井昭雄氏のご厚意で、同家所蔵の板碑群の調査を行いました。
　午前中は、納屋と庭先をお借りして、保管場所から運び込んだ板碑を洗い、村田顧問の指導で、分類と計数を行い、午後からは1点ずつ、計測と梵字・装飾・銘文をカードに記入、拓本採りと写真撮影を行いました。

1.保管場所から運び込んだ板碑を丁寧に洗いました。

2.分類と計数を行いました。

No. 1～12　有刻 完形 板碑　（12点）
No.13～31　有刻 上部 断碑　（19点）
No.32～43　無刻上部断碑（12点）
No.44～54　無刻完形板碑（11点）
No.55～86　無刻下部断碑（32点）
No.87～121　無刻断片　　（35点）
総計　板碑121点　＆　五輪塔空風部1点

3.計測と梵字・装飾・銘文をカードに記入、拓本採りと写真撮影を行いました。

調査した板碑群-1

No.1～12　　有刻 完形 板碑　(12点)
No.13～31　有刻 上部 断碑　(19点)

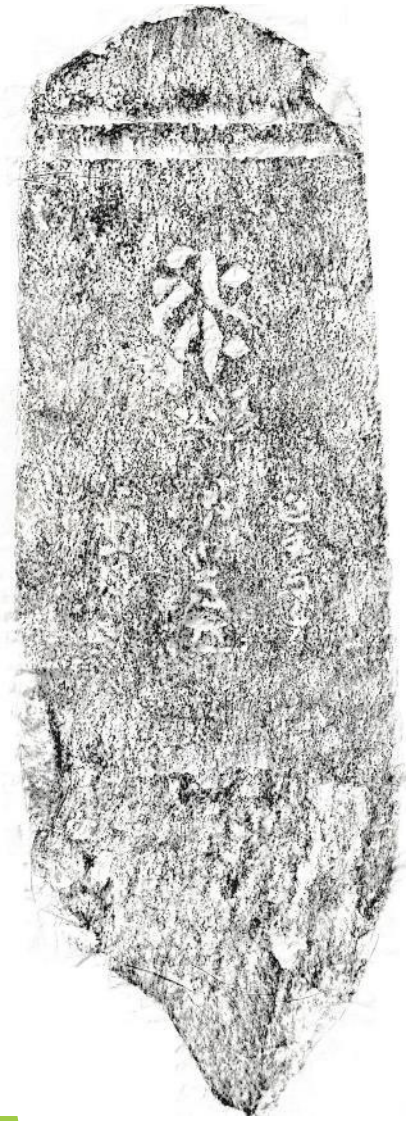
調査した板碑群-2

No.32～43　無刻 上部 断碑

No.55～86　無刻 下部 断碑

No.87～121　無刻断片

新発見の紀年銘のある板碑-1



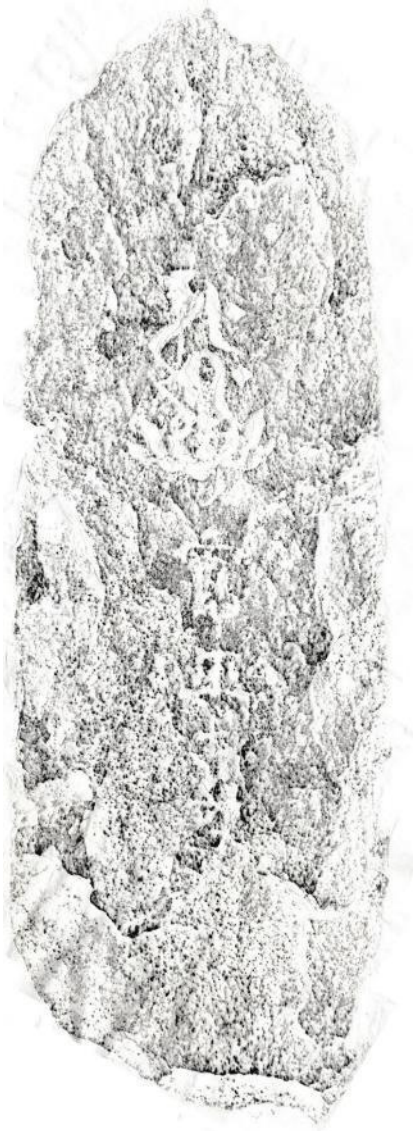
No.1　（1358）
「延文三年／十一月　日」銘
二条線・キリーク・蓮座・花瓶

No.2　（1357）
「延文二年／十月　日」銘
二条線・キリーク・蓮座・花瓶

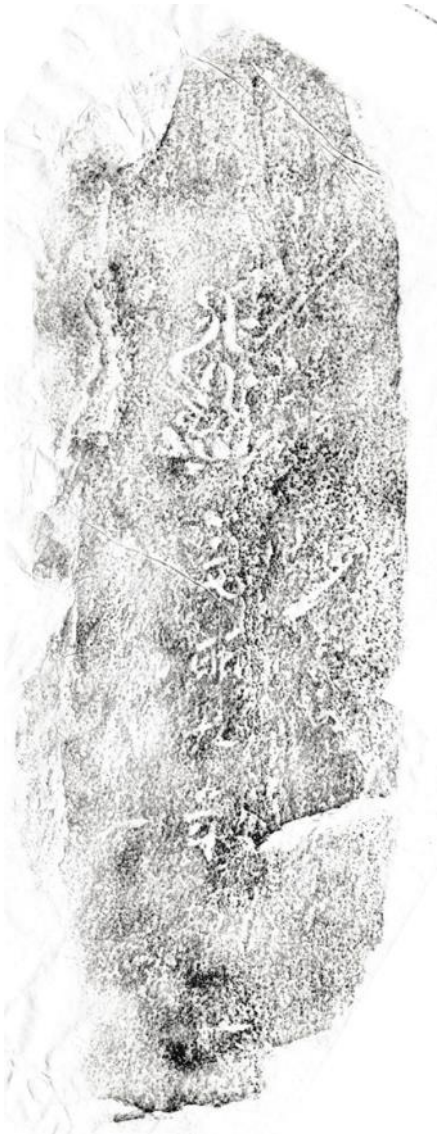
No.3　（1360）
「延文五年／十一月日」銘
二条線・キリーク・蓮座

No.4（1461）
「長禄五年／　月　日」銘
キリーク・蓮座

新発見の紀年銘のある板碑-2



No.5　（1466）
「寛正六年」銘
キリーク・蓮座



No.6　（1477）
「文明九年」銘
キリーク・蓮座

No.8（1478）
「文明十年」銘
キリーク・蓮座・花瓶

No.9（1467）
文正二年」銘
蓮座

No.13　断碑（1467）
「文正二年」銘

銘文のない板碑＆無刻の板碑

No.7　キリーク

No.10　キリーク　蓮座

No.28　キリークの痕跡

No.50～51　無刻 完形板碑

①未製品説(二次加工がされなかった)
②後世の加工説（後から表面を削った）
③粗雑な製品説など、
　その理由は諸説あります。

神野の新発見の板碑の種字（キリーク）と蓮座のかたち

No1

No.2

No.3

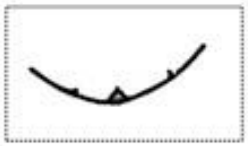
No.4

No.5

No.6

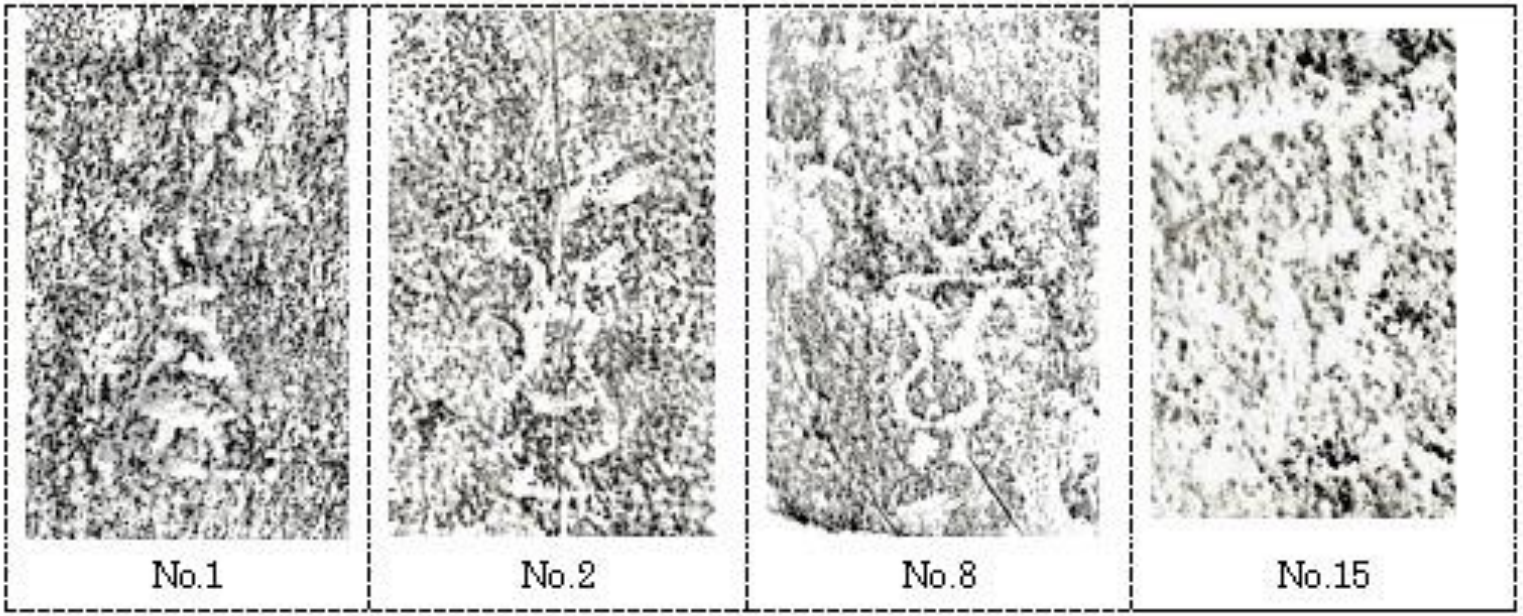
キリークの字体

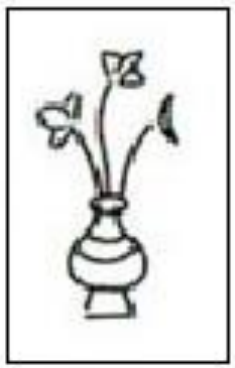
No.10



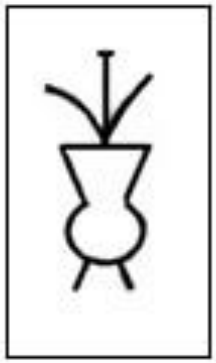
弧線状蓮座

神野の新発見の板碑の花瓶（けびょう）のかたち





徳利型a



広口壺型花瓶

調査資料の分類別概要

群	分類	数	資料No.	分類の定義
A	有刻 完形 板碑	10	No.1~7　10~12	ほぼ完形で梵字・蓮座・銘文のいずれあり
B	有刻 上部 断碑	21	No.8~9　13~31	上部のみで梵字・蓮座・銘文のいずれかあり
C	無刻 上部 断碑	12	No.32~43	上部のみで銘文・図像の刻なし
D	無刻 完形 板碑	11	No.44~54	ほぼ完形で銘文・図像の刻なし
E	無刻 下部 断碑	32	No.55~86	下部のみで銘文・図像の刻なし
F	無刻 断片	35	No.87~121	上下不明の破片で銘文・図像の刻なし

A群およびB群の有刻板碑の属性の件数（調査対象数：31基）

		二条線	種字	蓮座	花瓶	銘文
全数　31	有	4	20	19	4	11
A　完形碑　10	有	3	8	7	2	7
	無	7	0	3	8	3
	不明瞭	0	2	0	0	0
B　断碑　21 上部残存・有刻部分	有	1	12	12	2	4
	無	14	0	4	13	11
	不明瞭	1	5	4	0	0
	欠損	5	4	1	6	6

完形板碑の法量平均値の比較（有刻・無刻の別、時代別）

	完形全体	有刻　完形	内14世紀銘	内15世紀銘	無刻　完形
基数	21	10	3	4	11
高さ平均値　cm	44.3	46.6	51.3	44.3	42.3
幅平均値　cm	16.3	16.3	17.7	15.5	16.4

神野の新発見板碑の紀年銘と八千代市の板碑の年代グラフ

神野の2020年発見の板碑の紀年銘					
No.	年銘	西暦　年	No.	年銘	西暦　年
No. 1	延文三年	1358	No. 2	延文二年	1357
No. 3	延文五年	1360	No. 4	長禄五年	1461
No. 5	寛正六年	1466	No. 6	文明九年	1477
No. 8	文明十年	1478	No. 9・13	文正二年	1467

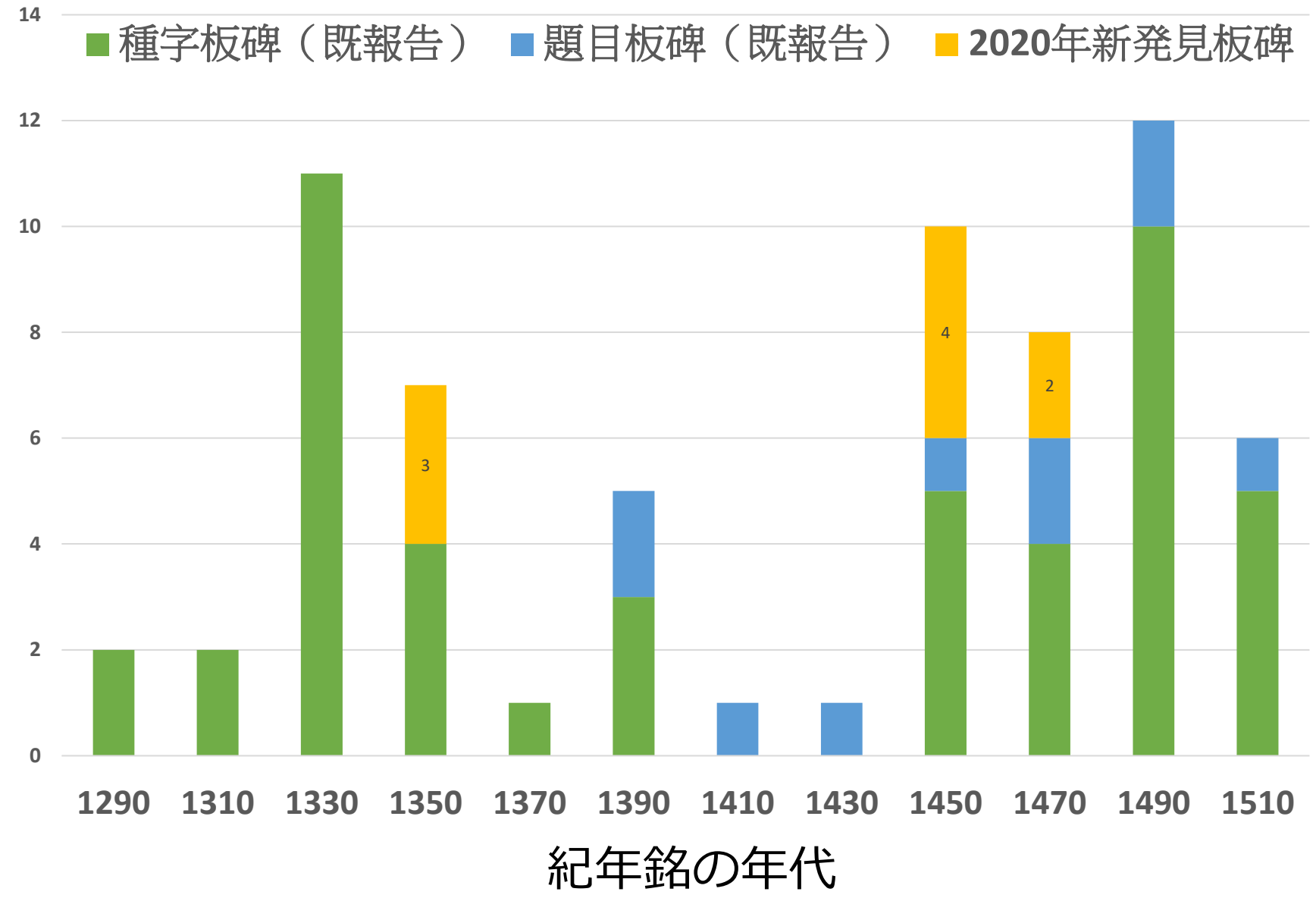
板碑群の銘文を釈読したところ、在銘は11基で、年銘のみでした。
うち2基は年不明、9基は上の表の通りで、14世紀中葉の延文が3基、15世紀中葉長禄～文正が4基、同後葉の文明が2基でした。

八千代市内既報告の板碑171基（下総型3基含む）のうち、年号のわかる57基に、今回の調査した9基を加えて年代別（20年毎）のグラフを図にしてみました。

千葉県内の武蔵型板碑の紀年銘の消長については、初現が1250年代、第1ピークが14世紀中葉、第2ピークが15世紀後葉、終焉は1590年代と報告されています。

今回の調査事例もその二つのピークに一致し、既報告事例57基に加えることにより、全体の動向がより千葉県内の動向に近いものとなりました。

八千代市内板碑年代別グラフ



板碑が神野で多く見つかった理由と地理的・歴史的な背景

神野は、印旛沼へ西から入る神崎川、南から入る新川（平戸川）のT字の水路に突き出した半島状の下総台地の先端で、**臼井庄の最北西**に位置します。
中世は臼井氏－千葉氏－原氏に属し、信仰は真言密教系です。

これまで見つかった板碑数の地理的な分布を地図上に重ねると、**板碑が多量に出土しているのは**、神野から左回りに新川を遡る**逆水～米本～村上の東岸ライン**であり、八千代市内板碑の8割がこのラインに集中しています。

新川西岸と神崎川南岸に囲まれた八千代市北西部は神保郷で、題目板碑の存在が物語るように中山法華経寺の領地です。
一方、新川の東岸は、臼井氏・千葉氏、後に原氏が支配する臼井庄西端のフロントラインであり、太田道灌や上杉謙信の臼井城攻めの際の新川を挟む米本城攻防戦の伝承が残っているように、原氏の支配する臼井城の軍事的最前線でした。

神野はその最前線の中でも、**平戸口を守る水運上の重要拠点**に位置し、当然、**軍事的な需要も多かった地域であった**と推測されます。

ご清聴
ありがとうございました